

10・11月行事を確認！！＝第1回理事会開く＝



TNC
通信
2023
10月号

理事会が9月15日、「とみプラ」で行われ今後の行事について検討しました。
【10月1日・富谷宿街道まつり】 当会は昨年同様、「とみやど」裏手の駐車場内(㊤㊦)の黄色テントになります。8時から準備、10時販売開始(17時終了)で、「上海邨」の協力の下、焼き小籠包等を販売します。留学生も参加予定です。イベントを楽しみながら、短時間でも応援、ご協力お願いいたします。
【11月11日・富ヶ丘公民館まつり】 友好条約締結45周年にあたり「写真展」を検討しています。



10月19日「魯迅碑前献花式」を予定
 恒例の「碑前献花式」が仙台市博物館横で10時半から行われます。参加自由ですが博物館工事中のため駐車は別の場所へ。

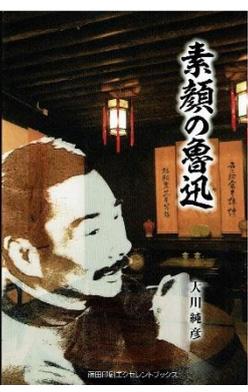
「第4回仙台中秋名月祭と市民文化講座」
 <主催> 宮華連
 <日時> 10月14日(土) 11時半～14時
 <会場> 国際センター2F
 <会費> 3000円
 <申込> gonghualian2014@gmail.com

続「魯迅之碑」と東洋刃物(株)
 8月号で表題について書いた。その後、東洋刃物の社内報(2006年8月、創立81周年企画「魯迅の碑」)に当時のエピソードが掲載されている旨、連絡いただいたので抜粋ですが紹介します。



「仙台駅近くにできた『仙台銀座』などに、昭和30年頃から経済人や県議らがよく集まるようになった。呼びかけ人は県議の三春重雄氏で、メヌケのあら汁等を肴に酒を飲む放談会からメヌケの会と呼ばれました。35年、会の常連がややこしい問題を持ち込んできます。魯迅の逝去20年を記念して、仙台の文化人、経済人が石碑建設を計画したが、立地場所が見つからないという問題である。
 当時日本と中国は国交がなく、しかも当時は魯迅の名も業績を知るものは少なかったのです。発起人は『東北大の片平構内に』と大学側に申し入れましたが、国の施設ということで断られ、広瀬川河川敷の近辺も拒否されることとなります。会に持ち込んだのは当社三代目社長の故高橋剛彦でした。だが碑の場所探しは難航し、資金集めにも困難を極めていました。この年開かれたローマ五輪に東北大漕艇部が日本代表で出場することが決まり、大学や市民の募金は漕艇部の方に向かい、さっぱりあつまらないありさま」「高橋元社長は仙台市を動かすしかないと考え、メヌケの会の三春氏とともに、魯迅の碑建立のために奔走しました。その甲斐あり昭和36年4月5日、現在の仙台市博物館の敷地内に建立されることとなります」(写真は除幕式。2列目左から6人目が高橋社長。同4人目が協力した島野市長)

『素顔の魯迅』(大川純彦著 藤田印刷エグゼレントブックス 1100円)
 昨年10月魯迅逝去の月に因んで発刊された。著者は仙台で学んだ魯迅研究者。120編ほどのエピソード集で、1編が新書見開きの短文であり、話も時系列ではないので気楽に読める。例えば「デザイナー魯迅」では中華民国の国章や北京大学校章の政策に携わった一人だった等、あるいは「仙台行きの謎」「祖父の偏屈」。「もう一人の男」では同郷で同宿だった施霖(しりん)に触れたある研究者の「彼は体育は満点だが、他の科目は落第した」として“試験問題漏洩事件”の背景に中国人蔑視がある、との話にも「魯迅が施霖を疎んじていたとは思われない」と。また「主治医・須藤五百三」でも両者の人間的信頼を立証している等々、参考になる。



§ 関東大震災100年 §
 9月1日「防災の日」の由来は関東大震災(1923年、大正12年)である。映画『福田村事件』等、朝鮮人虐殺は大震災の混乱の中、朝鮮人が井戸に毒を入れた、各地に放火したというデマが流れ、官憲たちや自警団等が数百から数千人



を虐殺し事件である。中国人労働者も多く含まれた。中国人労働者を援助していた王希天も軍隊に殺害された一人。逆に当時、支援活動に貢献した王一亭(実業家・画家)は、犠牲者の鎮魂を目的に「友好の鐘」を寄贈している。振り返って今も各種の差別は世界中で行われている。